

【神奈川】

舞で心癒やしたい 川崎区の舞川さん一門 福島で被災者に披露

2011年5月26日

日本舞踊「舞川流」家元の舞川扇彩さん(58)＝川崎市川崎区伊勢町＝が二十一、二十二の両日、東日本大震災で津波被害を受けた福島県いわき市を訪ね、避難所の体育館で被災者に舞を披露した。地元ボランティアから「別の避難所にも来てほしい」と声が掛かるなど好評で、舞川さんも「ぜひまた行って踊りたい」と意欲的だ。(栗原淳)

舞川さんは十八年前、伝統的流派から独立し、「舞川流」を立ち上げた。毎年秋に川崎大師周辺で行われる「水鳥(すいちょう)の祭」でも舞台に立っている。

今回は弟子ら二十人と同市南部の勿来(なこそ)地区に滞在した。土地に縁はなかったが、住民やボランティア団体と会って人脈づくりから始め、何とかこぎつけた公演。「義援金を送るのもいいけれど、舞踊家として何かしたいという思いに駆られ、現地に飛び込みました」と振り返る。

一門は二十二日、約四十人が避難している体育館に特設ステージをつくり、日本舞踊の古典演目「手習子」や、バレエ曲「剣の舞」などを取り入れた創作舞踊を熱演した。舞台が終わると被災者が「気持ちや和みました」「素晴らしい踊りだったね」と笑顔で駆け寄ってきたという。

「リラックスするひとときを提供できたと思う。行ってよかった」と舞川さん。「地震の被害に落胆しながら、避難所で張り詰めた毎日を過ごしている。そんな人たちに穏やかな気持ちになってほしい。踊りにはそれができます」と力を込めた。



被災地で創作舞踊を披露する一門＝22日、福島県いわき市の勿来体育館で

PR情報

[東京築地でキティちゃんが運転している乗り物は何！？【47CLUB】](#)

[全国の逸品をお取り寄せ！47CLUB\(よんななクラブ\)](#)